

様式4 令和4年度新座市学校評価システム 課題報告書

学校名	新座小学校
実施日	令和 4年12月6日

No.	質問項目	評価結果を踏まえた具体的な改善策		中間評価ポイント	評価 A/B/C/D
		中間評価	本評価	本評価ポイント	評価 A/B/C/D
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	中間評価	学年や校務分掌によって、業務量に差があるのは否めないが、教職員個々の強みや専門性を考慮して各主任等を配置する。校務分掌組織を見直す。働き方改革アンケートを1学期中に実施し、本校で可能な改善案をできるところから実行する。(日報の廃止、校務システムの掲示板を活用した連絡、職員会議資料の印刷の廃止など)	3.09	B
		本評価	今年度の反省を生かし、日課表や週予定表、教科等部会、各種委員会の組織表を抜本的に改革し、無駄を省く。モジュール授業も実施する。そのような取組を通して、教員が本分である授業の教材研究に多くの時間を充てられるようにする。また、金曜日の6時間目にクラブ・委員会を設置したり、放課後の会議をなくしたりすることで教職員が年休を取得しやすくする。【懸け橋プランとの関連】	2.96	B
10	学校は、カリキュラムマネジメントを推進し、society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	中間評価	ロイロノートの活用について校内で研修を行う、ICT機器を活用した授業を互いに参観する等をおして、ICT機器の活用に対する教職員の苦手意識を克服し、操作スキルを向上させる。【タブレット端末を文房具のように使いこなす】を合言葉に、ねらいに即して、思考力や表現力を向上させるためのタブレット端末を活用した授業を日々実践できるようにする。自分でまず考え、表現することを大切に授業を行う	2.96	B
		本評価	委嘱研究発表会に向けた算数科指導におけるタブレット端末の活用を柱に、他教科においても様々な活用法を試してきた。タブレット端末の活用状況を見ると、学年間で使用頻度に差があることが分かった。次年度は、キュビナの使用を現在の5、6年から、4、5、6年としたり、下学年におけるねらいに即した効果的な活用法の研修を行ったりすることで、使用頻度の偏りを小さくするようにする。	2.92	B
総 評					
		中間評価	教職員による評価は、18項目中A(3.5ポイント以上)は8項目であった。働き方改革については、教職員のコメントから、負担感や改善策について意見を聞き、できることから進めていこうとする姿勢を評価してもらえたと感じた。今後も、教職員のメンタルヘルスや児童を大切に教育を意識して、働き方改革に取り組んでいきたいと思う。タブレット端末やAI型学習ソフトの活用については、苦手意識をもっている教職員もいるため、GIGA推進委員会を中心に校内研修等を計画させ、教職員のICT機器の操作スキルを向上できるようにする。あいさつについては、本校の課題である。まず、教職員が模範となり、繰り返し指導やお話朝会などで取り上げ、励行していきたい。		
		本評価	教職員による評価は、18項目中A(3.5ポイント以上)は5項目であった。働き方改革については、月80時間を超える職員がゼロになっているものの、一部教員の業務量に偏りがあったり、勤務時間内での教材研究の時間の確保が難しい面があったりする。次年度は、日課表を始めとした抜本的な改革を行う。中間評価で課題に上っていたあいさつについては、教職員が模範となり、繰り返し指導や励行を続けることで、実感としてよくなってきている。(中間評価3.25→本評価3.52)教職員評価、保護者評価共に、数値が低いものについては、取組の周知が十分でないことも要因であるため、学校だよりやホームページで知らせていきたい。		